

氏名 荒 木 雅 史

授与した学位 博 士

専攻分野の名称 医 学

学位授与番号 博 乙 第 2706 号

学位授与の日付 平成 6 年 3 月 25 日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者

(学位規則第 4 条第 2 項該当)

学位論文題目 気管支喘息患者における末梢血中の好酸球・好塩基球前駆細胞の動態に関する研究

論文審査委員 教授 太田 善介 教授 辻 孝夫 教授 谷崎 勝朗

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

アレルギー性炎症反応を基盤として発症する成人喘息患者における、好酸球・好塩基球の細胞動態を好酸球・好塩基球前駆細胞の側面から解明する目的で、メチルセルロースによる *in vitro* コロニー法を用いて喘息患者末梢血中の Eo-type コロニーを形成する前駆細胞を測定し、喘息の病態間で検討した。末梢血中の Eo-type コロニー形成細胞数は、健康人に比べ喘息患者で高い傾向があり、アトピー型では健康人及び非アトピー型に比べ有意に増加していた ($p < 0.05$, $p < 0.01$)。非アトピー型では健康人に比べ有意に減少していた ($p < 0.05$)。アトピー型では、軽症より中等症で増加し、重症例で減少する傾向があった。アトピー型では末梢血好酸球数と Eo-type コロニー形成数に有意な正の相関を認めた ($r = 0.76$)。以上より、好酸球、好塩基球の前駆細胞は、特にアトピー型喘息病態に深く関与していることが判明した。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はアレルギー性炎症反応を基盤として発症する成人喘息患者における、好酸球と好塩基球の細胞動態を、好酸球・好塩基球前駆細胞の側面から解明することを目的としたものである。その結果末梢血中 Eo-type コロニー形成細胞数は、健康人に比べ喘息患者で高い傾向があり、アトピー型では健康人及び非アトピー型に比べ有意に増加していた ($p < 0.05$, $p < 0.01$)。非アトピー型では健康人に比べ有意に減少しているなどの成績を得

た。これは好酸球，好塩基球の前駆細胞は，特にアトピー型喘息病態に深く関与していることを示すものであり価値ある業績である。よって本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。